

子ども学の

# ひろば

お便り

POST

## ◆私の「カルチャー・いんふお」◆

「78歳で“男”から“女”へ」

「僕が性別“ゼロ”になった理由」(2020年NHK)。主人公は自分の性に違和感をもち20歳で性転換をした小林空雅さんですが、ここでご紹介するのは八代みゆきさんです。小林さんは男性になった自分にも違和感を拭えず、男性女性の二者択一に疑問を感じ、どちらでもないかと自認しています。番組で小林さんがインタビューした一人が八代みゆきさんです。

1925年生まれの八代さんは1944年に東京音楽学校(現東京藝術大学)に入学します。男は兵隊になってお国に尽くすものという時代に音楽の道を選んだのは、性同一性障害という定義がない中、幼い頃から美しいもの華やかなものが好き、男の子と遊ぼうとすると身構えて苦しかった自分をなんとかカモフラージュするためだったようです。近所の教会のパイプオルガンを聴くと、家族の期待に沿えない苦しみ、悩みを忘れられました。1944年には通信兵として従軍もしました。

戦後はチェロを米軍のパーティーで演奏し、1950～60年代はFEN(米軍極東放送網)でオーケストラを指揮、47歳で大学教授に招かれました。1956年には同志のような音楽家、安子さんと結婚しました。大学を退官した後、初めて自身の性の違和感を安子さんに伝え、78歳で戸籍上も女性になるためにタイで手術を受けます。女性となった八代さんは安子さんと養子縁組を結び、共に暮らしています。

映像では男性だった学校時代の同級生とのクラス会を写しています。八代さんをそのまま受け入れる人、どうして女になったんだと疑問を呈す人それぞれです。音楽に性別はないと八代さんは晴れやかに語ります。

参考：映画『ぼくが性別ゼロに戻るとき』(常井美幸監督 2019年) (AK)

## ◆「倉橋惣三協会」と『幼児の教育』◆

昨2020年6月、「倉橋惣三協会」(一般社団法人)が設立され、本誌の企画・編集にも支援的にかかわることとなりました。同協会の目的は、倉橋惣三の「育ての心」の精神を拠り所として教育・保育関係者の相互交流や人材育成を図り、保護者をはじめとする一般社会人と協働して子どもが育つよりよい環境を追究するところにあります。倉橋和雄さん(惣三の孫)を中心に、保育施設関係者、保育研究者、会社経営・事業者等、多様な人々と共に領域を超えたアイデアとノウハウを生かし、新しくつながれる場の創造を目指しています。

2021年は『幼児の教育』120周年企画として、お茶の水女子大学において記念シンポジウムを企画していますが、同時に倉橋和雄さんのご自宅に保管されている倉橋のノートやメモ類、写真等貴重な資料の公開も計画しております。今号からスタートした連載『「育ての心」で語りあう～動画を囲んだDX時代のカンファレンス～』は倉橋惣三協会による企画。紙上の平面的な保育記録をITで動く画像へ変換、デジタル世代に実践的な学びの場を提供したいという野心的な一試みです。

立ち上がったばかりの倉橋惣三協会では、新しい企画、新しい仲間を求めています。ご関心のある方は協会ホームページにアクセスしてください。本誌記事については、下記メールアドレスまでお問合せください。

youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

倉橋惣三協会ホームページURL：

sozo-kurahashi.or.jp

\*協会のロゴマークは

子どもの日の菖蒲の花です。

